

川越市青少年を育てる 市民会議

令和8年2月1日（第51号）
発行 川越市青少年を育てる市民会議
事務局 川越市こども未来部こども育成課
TEL 049-224-5724（直通）



川越市青少年健全育成表彰式 2025 を開催しました

昨年11月15日、川越市やまぶき会館を会場に、「川越市青少年健全育成表彰式」を開催しました。

この表彰式は、昨年度まで行っていた青少年健全育成川越市民大会をリニューアルしたもので、感謝状の贈呈、かしの木褒賞・やまぶき褒賞・少年の主張作文の各表彰が行われました。また、少年の主張作文最優秀賞作品の発表を行いました。2ページ以降で、表彰式の様子をご紹介します。

写真左上：感謝状を贈呈されたみなさん

写真右上：かしの木褒賞受賞のみなさん

写真左下：やまぶき褒賞受賞のみなさん

写真右下：少年の主張作文入選のみなさん



表彰式ははじめに、主催者として栗原薫副市長、新保正俊教育長、青少年を育てる市民会議宮岡寛会長のあいさつがありました。その後、感謝状の贈呈、青少年育成活動顕彰(かしの木褒賞)・青少年地域活動顕彰(やまぶき褒賞)・少年の主張作文入賞者の表彰を行いました。

表彰の後は、少年の主張作文最優秀作品の発表と青少年を育てる市民会議岡本紘子副会長による講評がありました。

川越市青少年健全育成章式 2025 で表彰された方々をご紹介します。(敬称略)

感謝状

市民会議の運営に尽力いただき、その功績が顕著な方に感謝状を贈りました。

◆個人(2名)

新井 忠雄

(川越市青少年を育てる第9地区会議)

栗原 喜一郎

(川越市青少年を育てる霞ヶ関北地区会議)

青少年育成活動顕彰「かしの木褒賞」

青少年の健全育成に尽力し功績顕著な成人の方に、市の木にちなみ名付けられた「かしの木褒賞」を贈りました。

◆個人の部(1名)

西田 久美子

◆団体の部(2団体)

子供見守り隊

川越市更生保護女性会



青少年地域活動顕彰「やまぶき褒賞」

明るく住みよい地域社会をつくるため、健全な地域

活動に励んでいる善行青少年に、市の花にちなみ名付けられた「やまぶき褒賞」を贈りました。

◆個人の部(7名)

足立 憧也

角龍 美空

小池 ひかる

須藤 優梨

関根 瑠里

新名 永治

藤寄 柊

少年の主張作文

少年の主張作文は、次代を担う青少年が日々考えていることや夢、希望を作文にすることで、同世代の意識啓発と青少年に対する市民の理解と関心を高めることを目的に行っております。今回は、1,354 編の応募があり、その中から入選作品 14 編を表章しました。また、最優秀賞受賞者による朗読が行われました。

◆中学生の部

最優秀賞(全文3ページに掲載)

「平和への願い」 霞ヶ関西中3年 前田 菜摘

優秀賞

「笑顔の力」 川越西中3年 眞田 晴彩

入選

「もう二度と繰り返させない」

富士見中3年 長澤 璃奈

「ビートルズが繋がげた心」 野田中3年 榊原 千尋

「努力が可能性を広げる」 野田中3年 濱崎 茅凧

「私の将来の夢」 芳野中3年 小池 結衣

「私の長い病との戦い」 高階西中2年 松下 朔也

「将来」 高階西中3年 阿曾 莉己

「選挙の大切さについて」 砂中2年 近藤 久義

「私にとっての「学ぶこと」」

霞ヶ関西中3年 富田 望結

「繋げたい想い」 川越西中2年 長谷部 莉央

「地域コミュニティの大切さについて」

鯨井中3年 松永 悠佑

◆高校生・一般の部

優秀賞

「裏方役者」 秀明高2年 吉澤 あい

入選

「僕が勉強する理由」 秀明高1年 萩原 大和

少年の主張作文 中学生の部 最優秀賞

平和への想い

霞ヶ関西中学校3年 前田 菜摘

「平和」とは何なのだろう。自分、家族、もしくは友達が健康に暮らせていたら、それは「平和」と呼べるのだろうか。

私は父親の仕事の都合で、発展途上国の代表格ともいえるインドに1年半ほど滞在していた。インドは先進国と比べると、インフラや貧困において課題が多いこと、そしてスラム街などがまだまだたくさん存在していることなどから、発展途上国に分類されている。しかし一方で、IT産業などは急速に発達しており、世界の経済を牽引している重要な国であることも確かだ。そんな国で暮らしていた日本人である私は、平和についてよく考えるようになっていた。なぜなら、日本で暮らしていたときには想像もつかないことが実際に私の身に起こったからだ。

ある休日に、家族と近くの市場に買い出しに出かけた。市場はとても大きく、さまざまな店が立ち並び、活気にあふれていた。そこでは、ある男性が小さなカートのようなものに乗って、その市場を回っていた。近づくると、彼は両手足がなく、全身に火傷の痕が広がっていた。男性は物乞い、あるいは募金活動のようなことをしていた。その光景は日本ではまず目にすることがないもので、私は驚きを隠せなかった。その後、小さな子どもが物乞いをして近づいてきた。現地の人曰く、同情してお金を渡す人が多いが、そのお金は親に奪われ、タバコ代やお酒代に使われているのがほとんどだという。自分よりも小さい子が物乞いをしてお金を稼ぎ、そのお金でさえ自由に使えないこの世界は、あまりに不平等だと感じた。

胸の奥で何かが動いたように感じた。日本で暮らしていたら、授業やニュースでこのようなことを知ったとしても、自分には関係ないだろう、と心のどこかで思っていたかもしれないと想像できたため、恥ずかしさを強く覚えた。

その日以来、教育や栄養、治療を十分に得られない人々の存在から目をそらし、たとえ故意でなかったとしても、単に母国に戦争がなく、自分や知り合いが健康であるからと、世界を平和と呼ぶことは、あまりにも浅はかであると考えようになった。

それから私はボランティア活動や募金活動に興味を持つようになり、インドの学校で友達と文化祭で

得た利益を寄付する活動を行った。私たちが運営した露店は、プレスレットをカスタマイズして購入できる



というものだった。材料を集め、金額を設定することからすべてグループで考え、無事当日を迎えた。利益は少ししか上がらなかったが、実際に私たちの手でお金を渡したとき、とても大きな達成感に包まれた。その他にも、使わなくなった服を貧しい人に寄付し、また日々の生活を送ることすら難しいような低賃金の人たちにチップを渡す際、少しでも収入の助けになるよう、少しでも多く渡すことを心掛けた。ささやかな取り組みかもしれないが、「何もしない」という選択を取らないことが、私ができる平和に貢献する第一歩だと思う。

一般的に「平和」を英語に訳すと「Peace」となり、多くの日本人は「Peace」の意味は「平和」だけだと思いがちだが、実はさまざまな意味がある。その中の一つが「安心」である。平和と呼べる世界は、全人類にとって安心して暮らせる世界だと私は考える。私たちが身近な人を思いやるとともに、ニュースなどを通して世界の情勢に関心を向け、自分にできることを一つひとつ行うことが平和につながると信じている。

あなたにとっての平和とは何だろうか。そして、その平和を守るために、自分には何ができるのか。少し立ち止まって考えてみてほしい。

少年の主張作文講評(要約)

応募作品は、身近なものから、世界情勢に関する話題に目を向けたものまであり、様々なテーマから自分の意見をまとめたものが多く見られた。社会問題が多岐にわたる現代において、未来を担う青少年の皆さんが、広い視野を持って行動したり、悩み考えたりしていることが伝わってきた。

最優秀賞の前田さんは、「何もしない」という選択肢を取らないことが、私ができる平和に貢献する第一歩と記している。その経験から、平和と呼べる世界は、全人類にとって安心して暮らせる世界だと考える前田さんの主張は、私たちに強く訴えかけてくるものである。

第21回川越市少年の翼

少年の翼事業は、本市民会議が川越市から委託を受け、企画から行っている事業で、市内公立中学校と私立中学校から推薦された中学3年生を対象に、夏休み期間に実施しております。次代を担う青少年を育成するため、友好都市である北海道中札内村等での体験学習を含む研修を実施しております。

今年度は、3回の事前研修を経て、8月17日から20日までの3泊4日で行われました。

研修生の報告書を通して、今年度の事業をご紹介します。

○事前研修

私達が初めて会ったのは7月25日の事前研修でした。不安もありましたが同じ志を持った仲間たちに出会えると思うとワクワクした気持ちでいっぱいでした。



○本研修1日目

ついに北海道へ到着しました。帯広百年記念館の見学や帯広アイヌ古式舞踊体験など初日から貴重な体験をたくさんさせていただきました。初めて見て、踊った古式舞踊には、研修生全員が釘付けになりとても充実した時間を過ごすことができました。



帯広アイヌ古式舞踊体験の様子

○本研修2日目

酪農体験では、普段生き物とふれあうようなことをしない私が仔牛とふれあい、乳搾り体験をさせていただき、生き物とふれあう楽しさを知ることができました。来村歓迎会では、私達のために現地の

方々が色々なものを用意してくださり、歓迎されることの喜びや感謝を感じることができました。



来村歓迎会で披露された中札内村のポロシリ太鼓

○本研修3日目

中札内村の中学生のみなさんと交流会を行いました。中札内村の歴史は、私たち川越の歴史とはまた違った魅力があり、事前学習では知らなかった新しい知識を学ぶことができました。

また、夜には「ウタリ祭」があり、みんなで踊って、歌って最高に盛り上がりました。ここにいるみんなが1つになった感じがして、とても心地が良かったです。



相原求一朗美術館前で森田市長・中札内村川尻村長と

○本研修4日目

パークゴルフを行った。最初の1戦目はほとんど空振りだったが、指導員の方にコツを教えてもらったら、2戦目からはどんどん遠くに打てるようになりました。

川越まで帰るバスの間は、最初に感じていた壁はまったくなくなかったです。一人ひとり感想を述べたとき、ほとんどの人が、「みんなと出会えて良かった」と話していたのが印象的だった。もちろん私も同じことを思いました。

時間はあっという間だったにもかかわらず、新しく学んだことが多く、とっても凝縮された4日間でした。